

おのおのすいぶん ほけきょうしん
各々隨分に法華経を信ぜら
れつるゆえに、過去の重罪
責め出たまそうろう
をせめいだし給いて候。た
とえば、鉄をよくよくきた
えばきずのあらわるるがご
とし。石はやけばはいとな
る。金はやけば真金となる。

(御書新版1474ページ・御書全集1083ページ)

通解

あなたたち(=池上兄弟)は、懸命に法華経を信じてきたので、過去世の重罪を責め出されているのです。例えば、鉄を十分に鍛え打てば内部の傷が表面に現れるのと同様である。石は焼けば灰となる。金は焼けば真金となる。

試練が自身を磨き上げる

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 新学期も御書を学び、元気に挑戦の日々を送ろう！

「兄弟抄」は、1276年(建治2年)、日蓮大聖人が、武藏国池上(現在の東京都大田区)の門下である池上宗仲、宗長兄弟と、その夫人たちに送られたお手紙です。

池上家は有力な工匠で、鎌倉幕府に仕えていました。ところが、父が兄弟の法華経の信仰に反対し、兄・宗仲を勘当(親子の縁を切ること)します。武家社会における勘当とは、家督相続権を失うことを意味し、経済的な基盤も社会的な身分も奪われるという厳しい圧迫でした。本抄は、その事件の報告に対する激励のお手紙です。

仏法では、今世の苦難は過去世の行い(罪)が原因であり、正しい教えを実践することで、あえて苦難を引き出し、重い罪の報いを軽く受けて消滅させることができますと説いています。

大聖人は、池上兄弟が苦難を受けているのもこの

法理の通りであり、信心によって必ず乗り越えられると教えられています。その例えとして、鉄の鍛錬を挙げられます。鉄は熱して鍛えていくと、内部の不純物がたき出され、その作業を繰り返していくことで一段と強靭になります。

さらに大聖人は、石は焼けば灰となるのに対し、金は焼けば真金となることを示されます。

僕たちの生活に置き換えると、悩みにぶつかった時、現実から目を背けずに、「今こそ自分を磨く時だ」と勇気を出して立ち向かうことが大切なんだ。題目を唱えて一生懸命に祈り、目の前のことには挑戦していくべき、必ず成長していくよ。

池田先生は「難のない平坦な道は楽です。しかし、苦難の坂を登り切っていけば、見晴らしの良い山の頂に立つことができる」と語っています。

大変なときこそ、大きく成長するチャンス！ 題目をあげながら勉強や部活動など、全てのことに挑戦して、自身を磨いていこう！